アハバール・カシオン

第　２　８　５　号
JICAシリア事務所
２０２１年３月２４日

★2021年1月～3月の予定★

【事務所関係者】
アンマン勤務
（JICAヨルダン事務所内）

宮原　千絵　所長（ヨルダン事務所長兼務）
柳　　竜也　次長（ヨルダン事務所次長兼務）
今村　誠　　職員（ヨルダン事務所兼務）
成田　英幸　職員（ヨルダン事務所兼務）
洲鎌　かおり 職員（ヨルダン事務所兼務）
髙島　淳　　企画調査員
宮越　麻衣子　企画調査員
髙井　史代　　企画調査員

【公休日】

1月　1日　　年始休暇
2月 11日　　建国記念の日
3月　8日　　Revolution Day

「アハバール・カシオン」
～名前の由来について～

「アハバール」とはNewsを意味するアラビア語。「カシオン」とはダマスカスの北に位置する旧約聖書にも記されている山の名前です。

◇アハバール・カシオンのバックナンバーは以下URLよりご覧いただけます。
https://www.jica.go.jp/syria/office/others/newsletter.html

●事務所から

2011年4月28日以降の関係者国外退避に伴い、JICAシリア事務所は現在JICAヨルダン事務所内に日本人所員執務所を設けています。

2020年12月1日、日本と諸外国との友好親善関係の増進に多大な貢献をし、特に顕著な功績のあった個人および団体が表彰される今年度の外務大臣表彰に、レバノンJICA帰国研修員同窓会（LEBA-JICA）が選ばれました！

LEBA-JICAは1998年にレバノンで設立され、日本文化紹介事業を行うなど、日-レバノンの友好関係の拡大に貢献するとともに、中東地域のJICA帰国研修員同窓会と共同でワークショップを開催するなど、JICA帰国研修員の知見を中東地域に還元し、各国間の連携を促進するうえで中心的な役割を担ってきたことなどが評価されました。

本号は、LEBA-JICAの外務大臣表彰受賞特集として、会長挨拶および今年度の帰国研修員同窓会活動報告に加え、レバノンに帰国後それぞれの専門分野で活躍する帰国研修員の方々の活動紹介記事等を掲載しています。

●レバノンJICA帰国研修員同窓会 会長挨拶

「令和2年度外務大臣表彰」受賞に寄せて

1998年の設立以来、LEBA-JICAは、科学的、文化的、社会的、技術的ノウハウの専門技術を得る目的だけでなく、両国間の親密な友好関係を強化する目的で、日本人とレバノン人の相互理解を促進してきました。

日本とレバノンの相互理解を促進する取り組みについて「令和2年度外務大臣表彰」を受賞することは、LEBA-JICAにとって今後も大切に受け継がれていく大いなる名誉です。この名誉ある受賞は、その名誉を維持・発展させるため、更なる努力の積み重ねを後押ししてくれます。

LEBA-JICA理事会と会員の名の下に、私はJICA及び大久保武駐レバノン大使閣下、これまで在任された全ての駐レバノン大使閣下、そして日本大使館のスタッフの皆様によるLEBA-JICAへの継続的なご支援に感謝致します。彼らの支援や激励がなければ、この名誉な賞を私達が受賞することは叶わなかったでしょう。同様に、日本国外務大臣や日本国民の皆様の、レバノンおよびレバノン人並びにLEBA-JICAに対するご支援に感謝致します。（ジャウダット・アブ・ジャウデ会長）

Jaoudat Abou-Jaoude会長

過去の同窓会活動で実施した
日本文化絵画コンテスト表彰式の様子

●レバノンJICA帰国研修員同窓会　2020年度活動報告

レバノン公立学校に対するデジタル教育普及支援

新型コロナウイルス感染症の世界的流行で、LEBA-JICAの2020年度の活動も、感染拡大防止のための新しい方法を模索する必要に迫られました。過去の活動を通じ、教育・高等教育省（MEHE）との連携を強化し、また複数の公立学校で実施、好評を得た日本文化絵画コンテストの経験を踏まえ、LEBA-JICAは公立校の高校生のデジタルリテラシー向上を目的としたプロジェクトを企画しました。LEBA-JICA は、MEHE の学習指導局（DOPS）と協力し、公立校の教職員が喫緊に求める教育機材と研修内容を特定、その結果、MEHEが公立高校で展開してきたロボット工学とソフトウェア活用のための研修プログラムの拡大実施に対し、LEBA-JICAによる支援が要請されました。

デジタルトレーニング用機材は、ソフトウェア実習のためのシングルボードコンピュータ、および学びと遊びを融合したロボット装置のほかに、扱いやすいハードウェアとソフトウェアを基にしたオープンソースの試作プラットフォームで構成されています。これらの機材や研修により、学生たちは、Python等の様々なコーディングツール を学んだり、OSの一つであるLINUX をセットアップしたり、マイコンボードの一種であるArduino やその構成要素に関する知識を習得したり、Python コードのトレースやデバッグをすることが可能になります。また、これらの機材や研修は、フィジカル・コンピューティングや、機械装置・電子機器装置の制作など、学んだ現実世界の技術と仮想空間とをつなぎ、STEM*と学生の関わりを高めるのに役立ちます。さらにこの支援には、上述した学習内容が学生に対して正確に教習されるよう、36 時間のIT 指導員向け研修プログラムを含んでいます。

2020年11月13日、MEHE内の引渡式典でLEBA-JICAは、共学の公立校であるアミール・チャキブ・アルスラン中等学校とガジル中等学校に、デジタルトレーニング機材を引き渡しました。この式典には、MEHE事務次官、DOPS局長、中等教育局長、2校の校長、LEBA-JICA幹部、JICAの在レバノン専門調整員が出席しました。MEHEのヤラク事務次官は、

2020年11月13日、教育・高等教育省（MEHE）内で開催された引渡式の様子

MEHEとLEBA-JICA間の幅広い連携関係が成功要因であると述べ、今後実施される研修プログラムに対し、密なモニタリングの実施を強調しました。

今回のLEBA-JICAによる活動は、将来有望な高校生に対して、今後のデジタル革命期の課題解決に必要なスキルを提供し、啓発と教育を通じて地域社会に活力を与えるという、LEBA-JICAの理念を改めて示す機会となりました。

（ゼイナ・カラーフ　在外専門調整員）

*Science, Technology, Engineering, Mathematicsの頭文字

●レバノンJICA帰国研修員　活動紹介

【観光省】 ルーラル・ツーリズム教育の普及

Petra Obeidさん

観光省の青年・地域団体局長のペトラ・オベイドさんは、レバノンの情熱の塊のような人です。彼女は2013年の勤務開始以来、若者世代に対し彼らの知らないレバノンを見せることを使命としてきました。ルーラル・ツーリズムを普及させることで、若い世代の心に村落文化の価値を再認識してもらうための種を蒔こうとしています。

2016年のJICA東京における観光マーケティング研修に参加後、2017年にオベイドさんの主導により観光省とJICA共同で、フォローアップ協力プロジェクトである「ルーラル・ユース・ツーリズム・スクールにおける手引きとその記録」が開始されました。 その目的とは、レバノンの全ての公立および私立学校の教師とその生徒を対象とし、青年のための村落観光に関する手引書とその記録を作成することです。プロジェクトの背後にある最終目的は、教師に対してルーラル・ツーリズム教育の座学実施を促し、レバノンの村落地域への修学旅行実施を喚起することでした。

プロジェクトを成功に導くために、①アクション・プランとJICA本邦研修との関連性、②観光省の積極的な関与・支援、③過去の経験と教訓の活用、④観光省の村落観光戦略との整合性、 の4点を担保するためのガイドラインが、作成・実践されました。

2018年初旬、手引書と記録DVD（映像資料）がレバノンの約2000の公立および私立校に配布され、レバノンにおける郷土教育に役立てられています。

（マラハ・モラッド　シニア・プログラム・オフィサー）

レクチャーを実施するPetra Obeidさん

●レバノンJICA帰国研修員　活動紹介

【経済・貿易省】 レバノンの二重の危機、その後

Hanan Abi Ghanem さん

レバノンは2020年に複数の危機に直面し、その最たるものは、経済と財政の急激な落ち込みと、新型コロナウイルス感染症の流行でした。しかし、経済・貿易省（MOET）知的財産事務所のIP（知的財産）コンサルタント兼上級商標検査官ハナン・アビ・ガネムさんは、この公衆衛生的および経済的な二重危機は、新たな問題に対してチャンスと解決策を見出したレバノンの人々の、革新的かつ起業家的な精神を大いに刺激したと語ります。

MOETは、新規スタートアップ登録、新規特許申請、および国産品の新規商標登録の件数が大きく伸びたのを確認し、人々の生活に不可欠な食料品や工業原料の価格を適正に保つためのメカニズムの導入・運用を開始しました。

アビ・ガネムさんは、2015年末にJICA課題別研修「直接投資を促すための知財制度整備に向けて」に参加、新規事業促進のためのIPに関する法的および組織的枠組みを強化する手法について見識を深めました。研修後、彼女は学生に対してIPに関する啓発活動を積極的に実施するとともに、議員に対しても更なる法整備の必要性への理解と対応を求めました。また、WIPO（世界知的所有権機関）の協力を得て、MOETの同僚とともに商標・特許・著作権・意匠に関する制度改善も進めています。彼女はまたLEBA-JICAの理事でもあり、彼女の知識・経験を、他の同窓会メンバーとも共有、同窓会活動を推進しています。

アビ・ガネムさんによると、2020年で最も注目すべきだったのは、農業および医療分野における、技術登録と特許の増加でした。これらの特許には、都市部での野菜栽培、ミミズを活用した堆肥製造、農家と消費者を直接つなぐデジタルプラットフォームの構築、そしてドローンによる屋内空間の消毒など、多くの革新的な技術が含まれていました。商標登録に関しても、チーズスプレッド、チョコレートスプレッド、家庭用洗剤など、以前は輸入品が一般的だった製品も、経済危機による外貨不足のため、手頃な価格の国産品が新たに生産されるようになりました。

◀課題別研修参加者と

アビ・ガネムさんは現在、インフレ中の食糧安定供給を確保するために、MOETが着手した「フード・バスケット」構想に取り組んでいます。この制度により、輸入業者が闇両替に頼ることなく、人々の生活に必要な食料品を供給することが可能となります。この優遇措置による価格が、スーパーマーケットでの小売価格にも反映されるとともに、これらの商品が営利目的で再輸出されることのないよう、MOETにより細かな対策が施されています。このメカニズムの実施のためには、MOETの他にも、農業省（農産物の輸入）、産業省（原材料の輸入）、税関総局（不正輸出の防止）、そして外貨を提供する中央銀行など、多くの関係機関との調整が必要です。

これらの事例は、レバノンの人々のレジリエンスおよびモチベーションの高さを証明しています。アビ・ガネムさんは、努力・革新・協力により、レバノンの人々は、この社会不安を乗り越え、長期的な強い経済を実現できると信じています。

（ゼイナ・カラーフ　在外専門調整員）

●レバノンJICA帰国研修員　活動紹介

【エネルギー・水省】 研修経験から、飲料水の健康リスクを軽減

Mirvat Kraydiehさん

エネルギー水省の中央調整官兼水質管理局長であるミルヴァ・クレイディエさんは、2001年に札幌市の衛生研究所で開催されたJICA本邦研修に公衆衛生の専門家として参加しました。2か月間の研修では、都市部の水質汚染検査技術についての考え方と計画手法を学び、その経験は現在も業務に活かされていると言います。 彼女は、札幌市で導入・実施されていた地球環境に優しい施策を知ることで、エネルギー水省の水質管理の中央調整官としても、学びの多い機会だったようです。

特に、水処理で使用される2つの凝集剤である塩化第二鉄と硫酸アルミニウムの比較において、研修施設に設置された機器類とその活用技術を学べたことが、研修での一番の収穫だったそうです。比較試験の最終結果では、レバノンにおける水のP.H範囲値では、塩化第二鉄の利用が技術的に有効であったため、彼女はコストが割高であるものの、凝集剤を硫酸アルミニウムから塩化第二鉄に変更する重要性を主張し続けたそうです。最終的に、同省は凝集剤の変更を承認し、彼女はレバノンにおける飲料水中の硫酸アルミニウムに関連する健康リスク軽減に成功しました。

（マラハ・モラッド　シニア・プログラム・オフィサー）

●レバノンJICA帰国研修員　活動紹介

【環境省】 研修で能力向上、汚染防止と廃棄物処理に生かす

Sabine Ghosn さん

サビーン・ゴスンさんは14年間、環境省で都市環境汚染の防止および制御業務に従事してきました。2016年にJICA本邦研修「産業汚染制御管理」に参加、研修で学んだ水質汚染防止管理と汚染防止技術、および廃棄物処理とリサイクル技術は、現在レバノンの環境省で都市環境汚染防止局長を勤める彼女のキャリアにとって、大変重要だったと語ります。彼女の部署では、現在、固形廃棄物と廃水の管理、都市環境に関連する苦情対応、およびそれらに関連する国際プロジェクトの調整・フォローアップ等を担っているためです。

ゴスンさんは、レバノン環境省が汚染の防止と管理に関する目標と責任を果たし、都市環境の改善を達成することを支援する上で必要な能力を、本邦研修で向上することができたと言います。

研修修了後、彼女とそのチームは、公害の防止と管理に関連する日常業務で得られた技術的専門知識を、関連する全ての環境分野、特に固形廃棄物と廃水管理に適用しようと努力しています。

ゴスンさんは、環境問題に取り組む日本の偉大さを体験する素晴らしい機会を提供してくれた、日本政府とJICAに、心からの感謝を伝えたいと語りました。

（マラハ・モラッド　シニア・プログラム・オフィサー）

● 着任挨拶

アハラン・ワ・サハラン！ようこそ！

職員 氏名：洲鎌　かおり	今年1月に、成田所員の後任として着任しました、洲鎌（すがま）と申します。 十数年前に、ダマスカスに語学留学した元留学生です。留学をきっかけに、語学に加え、中東の建築・歴史・工芸・料理・音楽に魅了され、これまで中東地域を中心に勤務してまいりました。留学時代に多くの方々のお世話になったことから、第二の故郷であるシリアに関係する業務に従事したいと常々考えておりました。今回、念願叶ってシリア業務に従事する機会をいただき、大変光栄であると共に、身の引き締まる思いでいっぱいです。 シリア情勢は、依然として厳しい状況下にありますが、現地で業務に従事しているナショナルスタッフと連携し、事務所運営業務を担当していきたいと思います。 どうぞ宜しくお願い致します。

● 離任挨拶

マアッサラーメ！お疲れ様でした！

職員 氏名：成田　英幸	2018年2月の着任から、早いもので3年が過ぎてしまいました。この間、シリア国内の治安状況は大きく改善した一方、経済制裁や隣国レバノンの経済危機、さらには新型コロナウイルス感染症のパンデミックなど、シリア国内のみならず国外に逃れた人々の経済・生活環境まで、改善されるどころか大幅に悪化しています。 今年の3月で勃発から10年を迎えるシリア危機ですが、ますます先の見えない状況となっており、ただただシリア人の同僚や知人たちに、一日でも早く平和で穏やかな日常が戻ってほしいと願わずにいられません。いつの日か、この足でシリアの地を踏むことを願いつつ、今後は日本から、シリアに思いを馳せてゆきたいと思います。 最後にこの場をお借りして、関係者の皆様また読者の皆様に感謝申し上げるとともに、今後も皆様のご健康が守られますよう心よりお祈りいたします。

ホームページ
www.jica.go.jp/syria/index.html

お問い合わせ先（E-mail）
sr_oso_rep@jica.go.jp

お知らせ

アハバール・カシオンのバックナンバーは左記JICAホームページより閲覧いただけます。ご寄稿、ご感想およびお問い合わせはメールにて受け付けております。

編集後記

276号から今回の285号まで、ちょうど10号分の編集を担当させていただきました。シリア国内の現地職員マラハさん、レバノンの調整員ゼイナさんの多大なるサポートのおかげで、なんとか本誌の発行を続けることができました。今後もアハバール・カシオンをどうぞよろしくお願いいたします。（成田）